



五島市富江町にある店舗は、築140年の古民家を改修しており、風情たっぷり。
すぐそばには、海が広がっている。



仕事以外にも楽しみを見出せるかが移住のポイントですね。

埼玉県 ▼ 五島市

新
ナガサキ
移住のカタチ
自分らしい生き方

ポー・麻梨絵さん

Life in Nagasaki

移住歴6年

島だからこそ
自由があり、
叶う夢がある。

東 京でアパレル関係の仕事をする傍ら、プライベートで結婚式のプロデュースに関わっていたポー・麻梨絵さん。プライダルの仕事を本格的にやってみたいという気持ちが膨らみ始めた時、五島市が地域おこし協力隊の募集をしていることを知った。両親の生まれ故郷であり、祖父母が暮らす五島は、麻梨絵さんにとって親しみのある場所。また「五島なら、自由な結婚式を提案できるのでは」と夢を抱いた。

地域おこし協力隊として、島でさまざまなイベントを成功させた麻梨絵さんは、二〇一八年、足掛かりとして「ショップ&カフェ『te to ba 手と場』」をオープンした。店では島の野菜や魚を使ったメニューのほか、五島で活動

する職人や自身が手がけた商品などを販売。そして遂に今年、念願のプライダル事業を立ち上げ、第一号のカップルが結婚式を挙げた。麻梨絵さんは「カップルやゲストに喜んでもらうことにはもちろんやりがいを感じますが、それだけではありません。結婚式の成功のために協力してもらった菓子店や生花店など、多くの業者さんとのつながりを作り、地元に貢献できることがそがプライダルの魅力」と話す。

最近では野菜の栽培や釣りも始めたという麻梨絵さん。東京では気付かなかった旬のものに敏感になり、食生活が豊かになった。ご近所さんからのおすそ分けも嬉しい。「島は人と人との距離が近く、たまにそれを大変に思う時もありますが、都会ならラクかという点、そうでもないだろうと思います。また、デザインの仕事に不可欠なインプットの機会が少ないのは、島ならではの悩み。もちろん本やインターネットは活用していますが、時々島の外へも出かけて、いろんなものに触れるようにしています」。自分の中でバランスを取ることが、島での暮らしを楽しめるものにする秘訣のようだ。

今年の夏に宿泊施設もオープンした麻梨絵さんだが、「次は近くの倉庫を狙っています（笑）。あの空間なら、何か楽しいことができるんじゃないかと思って」と、もう次の目標を決めていた。彼女の居場所はどんどん広がっている。

ショップ&カフェ te to ba <手と場>

